

古代吉備の遺跡と取り組み 30 年

日本先史古代研究会 会長 若狭哲六

古代吉備には、多くの古代遺跡があります。それらの遺跡が、その構築が明らかにされていない。無理もない話である。その時代は、まだ文字も無く、誰一人として記録したものが無いからである。

1984 年 6 月、私は熊山に遺存されている「熊山遺跡」と出逢うことが出来ました。その頃、岡山県は瀬戸大橋完成までに、岡山の良さを全国に知っていただくため、県民に対し、①観光資源の発掘整備、②観光客受け入れの体制の整備、③観光宣伝を三本柱とする「観光キャンペーン」＝あじわいの岡山路を全国に向けて展開していたのです。私は、この機会に「熊山の再開発」についての提案をさせていただきました。

提案に対する県からの回答文によれば、熊山は文化財も多く、熊山の再開発は非常に困難とのことでした。熊山には、国の史跡とされている熊山遺跡があります。しかし乍ら、遺跡の構築は明らかにされていなかったのです。すなわち、遺跡は、「謎の熊山遺跡」というベールを張られていたのです。この謎の熊山遺跡は、昭和 13 年 6 月に地元の人にとって発掘されていて発掘後 13 年間は、学会に知らされていなかった。

その頃、地元の人により、発掘の様子が京都大学の考古学者、梅原末治博士に知らされ、考古学会に博士の考えが発表されていた。博士は、遺跡は「仏塔」であるとの説を発表されております。その後天理大学参考館の近江昌司により再考され、近江氏は「墳墓」を提唱されたのである。その後遺跡についての論証はなかった。

熊山遺跡は、昭和 13 年 6 月の発掘によって多くの出土品を出している。幸い私は、地元の古老より出土されていた遺物を見る事が出来たのです。そのことから、①1987 年 5 月②1988 年 4 月③1988 年 8 月④1989 年 7 月⑤1990 年 4 月⑥1991 年 12 月と六回の遺跡に関する小著を発刊することが出来ました。幸い 1991 年 12 月の小著は①米国国会議事堂図書館②トロント大学③ミシガン大学④ハーバード大学図書館より購読の依頼を受け収蔵されました。また中国社会科学院歴史考古学研究所にも届けることが出来ました。国内の大学および、研究機関からは、購読の依頼は全くありませんでした。

その後、20 年間、私自身、試行錯誤したことで昨年 5 月に熊山遺跡を軸とする論考をもって、新たに小著を発行いたしました。

「東アジアから見た 知られざる古代吉備 日本古代史の源流をさぐる」

です。小著では、謎とされていた熊山遺跡の構築の意義を明らかにし、鶴山丸山古墳に眠る王の謎に迫ることが出来たのであります。古代遺跡については、歴史・考古学分野から考証を進めなければならないことが出来るようになったと思います。まだまだ古代吉備、日本の古代は謎の多いところが多いとされています。日本の古代を考える上では、多くの研究者が大きなテーブルをつくらねばならないと思います。

編者注記 この本を購読希望の方は直接先生に申し込みください。A5版 293P 送料共 2950 円
連絡先＝tel/fax(0869)64-0184